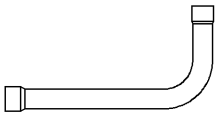
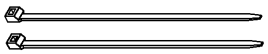
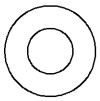
85464359996003

据付工事担当のかたへ

室内・室外ユニツトには、他に「試運転担当のかたへ」「電気工事担当のかたへ」の説明書が添付してあります。必ず参照してください。

1．付属品

床置形（ダクト・プレナム）　１４０、２２４，２８０形

	名　　称	形　　状	個数	備　　考
冷媒配管用	銅 パ イ プ		1	ガス管 ユニット配管用
	ク ラ ン パ ー		2	ユニット配管接続部 断熱材固定用 （ガス管・液管）
	ゴ ム カ バ ー （ ＊ ）		1	液管用

＊ゴムカバーは１４０形のみ付属です

- アンカーボルトはＭ１０または３／８〃以上を使用してください。
- アンカーボルトおよびナットは現地手配です。

安全上のご注意

■ 据付工事、電気工事は、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ確実に行ってください。

■ ここに示した注意事項は、「⚠ 警告」、「⚠ 注意」に区分していますが、いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。表示と意味は次のようになっています。

⚠ 警告　取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。

⚠ 注意　取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される場合。

※据付工事完了後、試運転を行い異常がないことを確認するとともに〝取扱説明書〟にそってお客様に使用方法、お手入れの仕方を説明してください。また〝据付工事担当のかたへ〟、〝電気工事担当のかたへ〟は、〝取扱説明書〟と共に、お客様で保管頂くように依頼してください。

⚠ 警告

- 据付・電気工事は、販売店または専門業者に依頼してください。
  ご自分で据付工事をされ不備があると、水漏れや感電・火災等の原因になります。
- 据付工事は、〝据付工事担当のかたへ〟〝電気工事担当のかたへ〟に従って確実に行ってください。
  据え付けに不備があると、冷媒漏れ・水漏れ・感電・火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規定」および〝据付工事担当のかたへ〟〝電気工事担当のかたへ〟に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
  電源回路容量不足や施工不備があると、感電・火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように確実に固定してください。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 小部屋へ据え付ける場合は万一冷媒が漏れても限界濃度を超えない対策が必要です。
  限界濃度を超えない対策については販売店と相談して据え付けてください。万一、冷媒が漏洩して限界濃度を超えると酸欠事故の原因になります。（ビル用マルチの場合）
- 据え付けは、重量に十分耐える所に確実に行ってください。
  強度が不足している場合は、ユニットの落下により、けがの原因になります。
- 作業中に冷媒ガスが漏れた場合は換気をしてください。
  冷媒ガスが火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
- 設置工事終了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認してください。
  冷媒ガスが室内に漏れ、ファンヒーター・ストーブ・コンロなどの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。

⚠ 注意

- 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わないでください。
  万一ガスが漏れてユニットの周囲に溜ると、発火の原因になることがあります。
- ドレン配管は、〝ドレン配管のしかた〟に従って確実に排水するよう配管し、結露が生じないよう保温してください。配管工事に不備があると水漏れし、家財等を濡らす原因になることがあります。
- 冷媒配管の断熱は、〝冷媒配管のしかた〟に従って確実に断熱してください。
  断熱しないと、水漏れや、やけどの原因になることがあります。

2. 据付場所

⚠警告

1．室内ユニットの重量に十分耐える強固な構造の基礎に水平に据え付けてください。

2．冷気（暖気）の循環しやすい場所に据え付けてください。吹出口および吸込口の風の通路には障害物がないようにしてください。

3．外気の入りやすい扉や窓の近くに室内ユニットを据え付けることは、できる限り避けてください。吹出口に露がついたり、霧吹きや露飛びが発生することがあります。

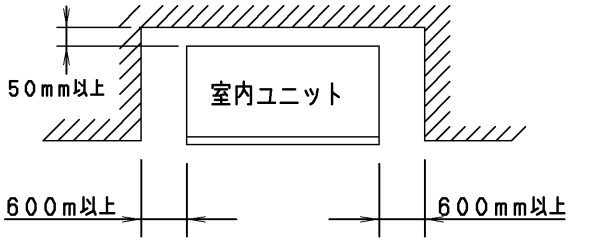
⚠注意

4．ドレン水の処理のしやすいところに据え付けてください。

- ドレン配管は屋内を通る部分をできるだけ短くしてください。
- 屋内を通る部分のドレン配管は必ず断熱してください。
- ドレン水は隣家などに迷惑のかからないようにしてください。

5．運転音が増大しないように基礎へ強固に取り付けてください。

6．室内ユニットの周囲は、十分にスペースを取ってください。（図－１参照）

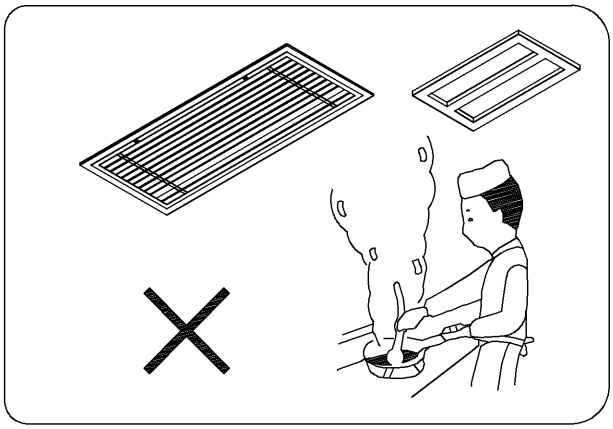


（※ただし配管しない側は３００ｍｍ以上）

図－１

⚠注意

7．油を多量に使用する中華料理店などの調理場や工場の機械設備の近くに室内ユニットを据え付けないでください。
油が熱交換器、電気ヒーターや樹脂部品等に付着して、能力の低下・霧吹きや露飛びの発生・ヒーターの故障・樹脂部品の変形や破損の原因となります。（図－２参照）



図－２

⚠注意

8．可燃性ガスの発生・滞留・漏れの恐れのあるところは避けてください。

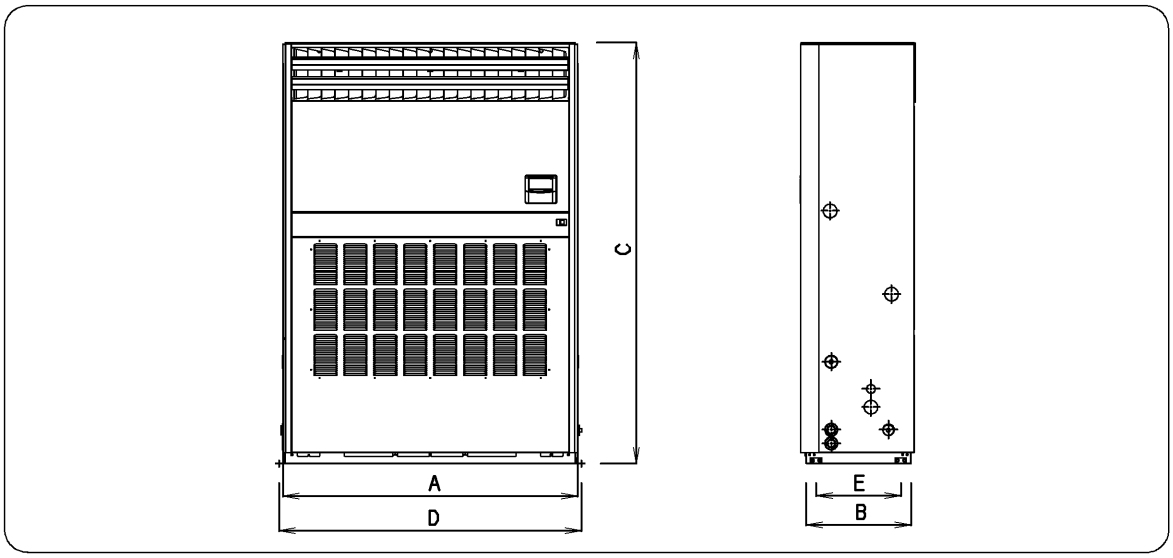
9．亜硫酸ガス・腐食性ガスの発生するところは避けてください。

10．高周波が発生する機械のあるところは避けてください。

3．室内ユニットの据え付けかた

1．アンカーボルトの取付ピッチを確認します。下図（図3，図4）を参照してください。

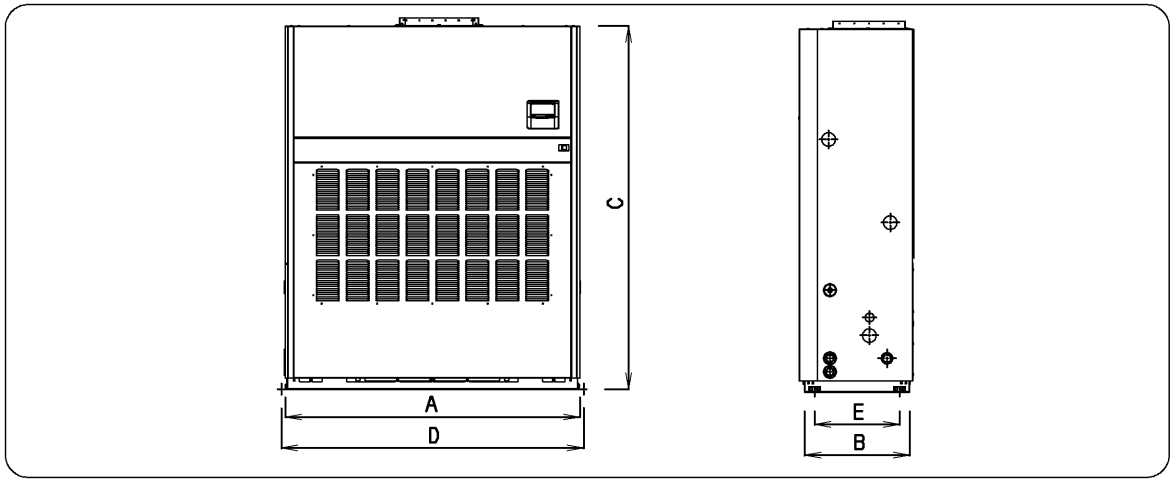
2．固定する箇所を強固な構造にします。



図－3
プレナム形

	外　形　寸　法			アンカーボルト位置	
	A	B	C	D	E
224形	1000	463	1855	1033	374
280形	1300	463	1855	1333	374

※アンカーボルトは
　10ｍｍまたは3／8″以上（4本使用）
※ボルト用穴径　φ16



図－4
ダクト形

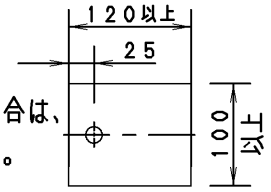
	外　形　寸　法			アンカーボルト位置	
	A	B	C	D	E
224形	1000	463	1600	1033	374
280形	1300	463	1600	1333	374
140形	700	463	1600	733	374

※アンカーボルトは
　10ｍｍまたは3／8″以上（4本使用）
※ボルト用穴径　φ16

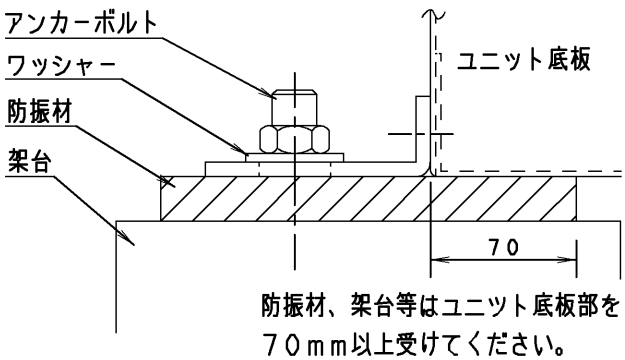
⚠警告

3．アンカーボルトは確実に固定してください。

● 防振材、架台等は必ず足の奥部まで
受けるようにしてください。（右図参照）
また、上部からの固定用ワッシャーは、
据付固定穴より大きいものを使用してください。



防振材を取り付ける場合は、
右図参照してください。



防振材、架台等はユニット底板部を
７０ｍｍ以上受けてください。

4. 冷媒配管および配線のしかた

1．冷媒配管のしかた

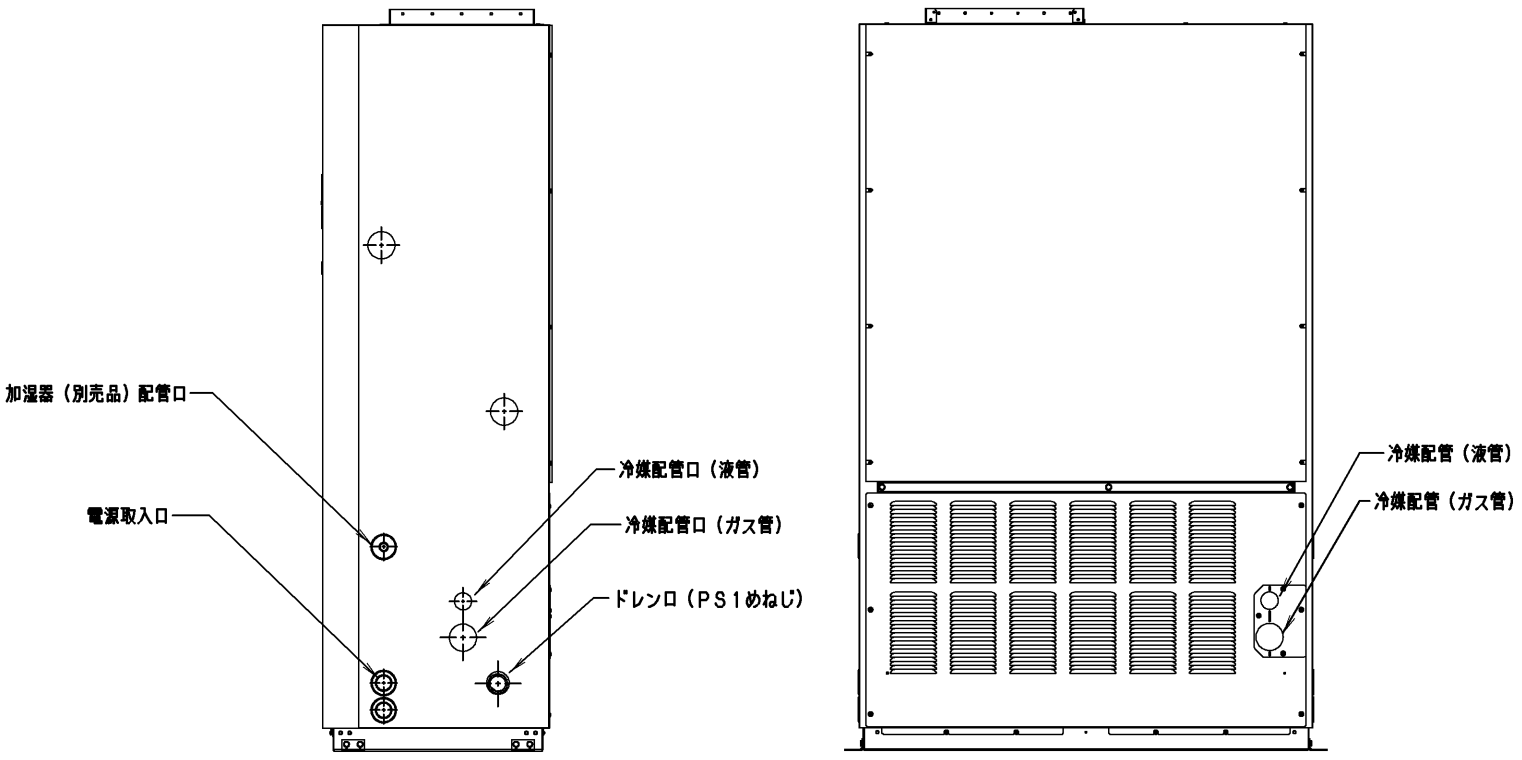
● 室内・室外　接続冷媒配管径、および接続方式は表１のとおりです。

表１

	ガス管		液管		
１４０形	φ１５．８８	ろう付接続	φ９．５２	ろう付接続	
２２４形	φ２５．４	ろう付接続	φ９．５２	ろう付接続	エスパ機種
２２４形	φ１９．０５	ろう付接続	φ９．５２	ろう付接続	マルチ機種
２８０形	φ２５．４	ろう付接続	φ１２．７	ろう付接続	エスパ機種
２８０形	φ２２．２２	ろう付接続	φ９．５２	ろう付接続	マルチ機種

＊液管の接続の銅管ジョイントは現地手配してください。

2．右側面図　後面図



- 据付場所により後面、左右側面の３方向へ配管できます。（図６・図７参照）
- 室内ユニットへのガス管・液管配管接続は、ろう付接続です。（図７参照）
  ユニット内配管の管端部は、配管作業中に傷・打痕・変形などに注意してください。

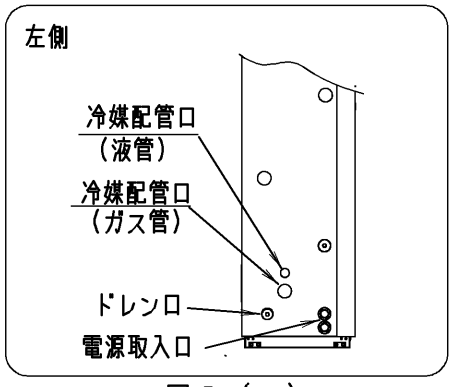


図６（ａ）

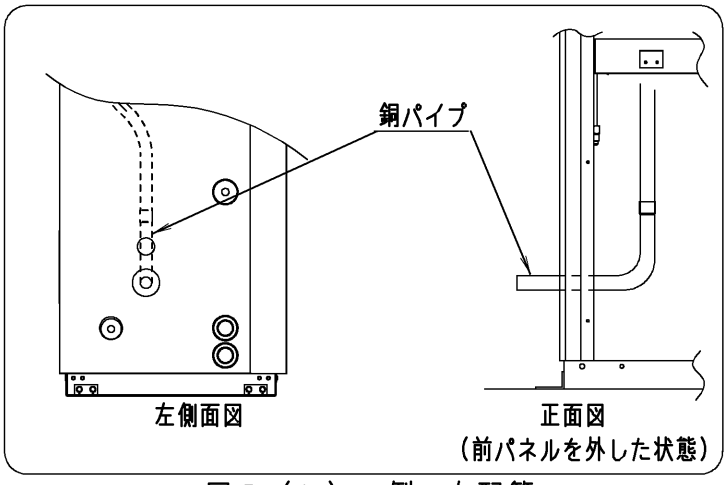


図６（ｂ）　例．左配管

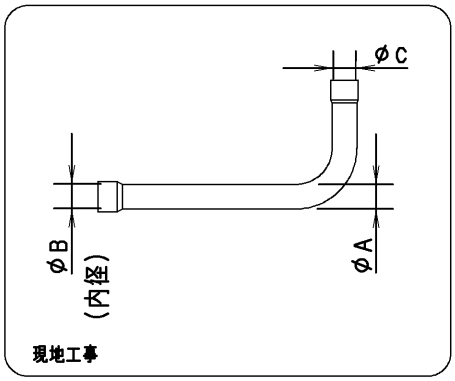
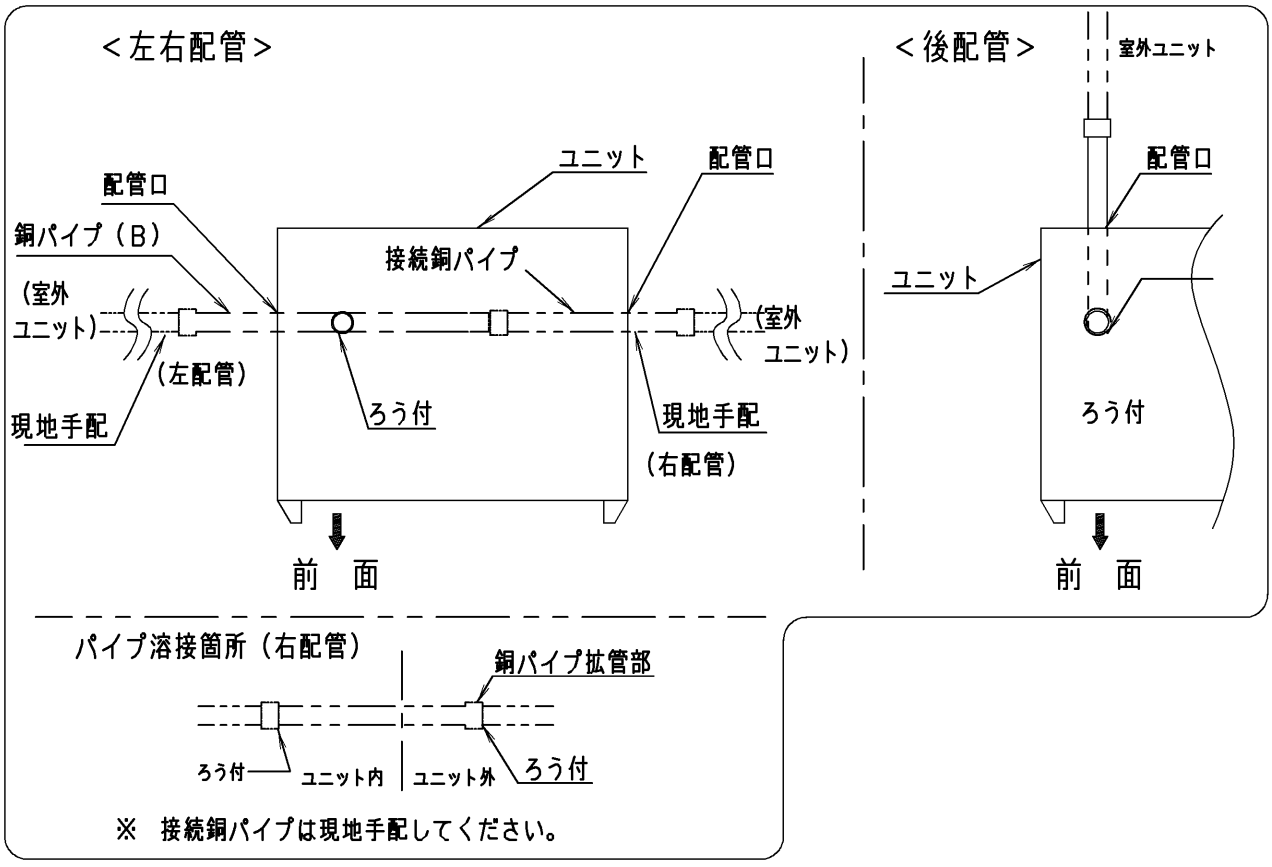


図６（ｃ）

	A	B	C
280形（エスパ機種）	φ25．4	φ25．4	φ29．22
280形（マルチ機種）	φ25．4	φ22．22	φ29．22
224形（エスパ機種）	φ22．22	φ25．4	φ25．54
224形（マルチ機種）	φ22．22	φ19．05	φ25．54
140形（エスパ機種）	φ15．88	φ15．88	φ18．38

付属品－銅パイプの寸法



図－７　ガス側管接続図

⚠注意

- 銅管のろう付作業時は、銅管内部を窒素で置換してからろう付してください。
- 気密試験実施後、ガス管・液管とも配管に
  ついた水滴がドレンパンの外に落ちないよう
  必ず配管のＲ尻まで断熱を行ってください
  そのとき配管断熱材の口を付属のクランパー
  で縛り、配管に水が伝わらないようにしてください。

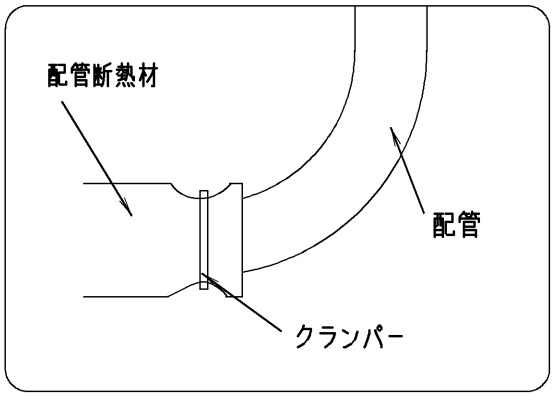


図８

- パッケージエアコンは”高圧ガス保安法”“冷凍保安規則”および高圧ガス保安協会制定の”冷凍装置の施設基準”を満たすように設置してください。

２．ユニット間配線のしかた

- ユニット間端子板および電源端子板は、電装ボックスの前パネルを外すと露出します。
- 電気工事および接地工事は、"電気設備に関する技術基準"、"内線規定"および
  パッケージエアコンの電源仕様に従ってください。

５.ドレン配管のしかた

※図９参照

⚠注意

- ドレン配管は必ず下り勾配（１／１００以上）をつけて配管してください。
- ドレン配管はユニットの外側にトラップを設けてください。
- 屋内部分にあるドレン配管は必ず断熱してください。
- ドレン配管が終わりましたらドレンパンに水を入れて流れるかどうか確認してください。
- ドレン配管を接続する場合、ユニット側の配管に力を加えないように行い、できる限り
  ユニット近傍で配管を固定してください。

⚠注意

- 冷媒配管とドレン配管は必ず別々にしてカバーしてください。
- ドレン配管はできるだけ塩ビ配管で行ってください。
- ドレン配管取出口はユニット本体２箇所（左右）にありますが、出荷時の右側（コントロールパネル側）のドレン口には鋳鉄製プラグを取り付けてあります。
  右側からドレン配管を行う場合、右側の鋳鉄製プラグを左側に付け返えてください。

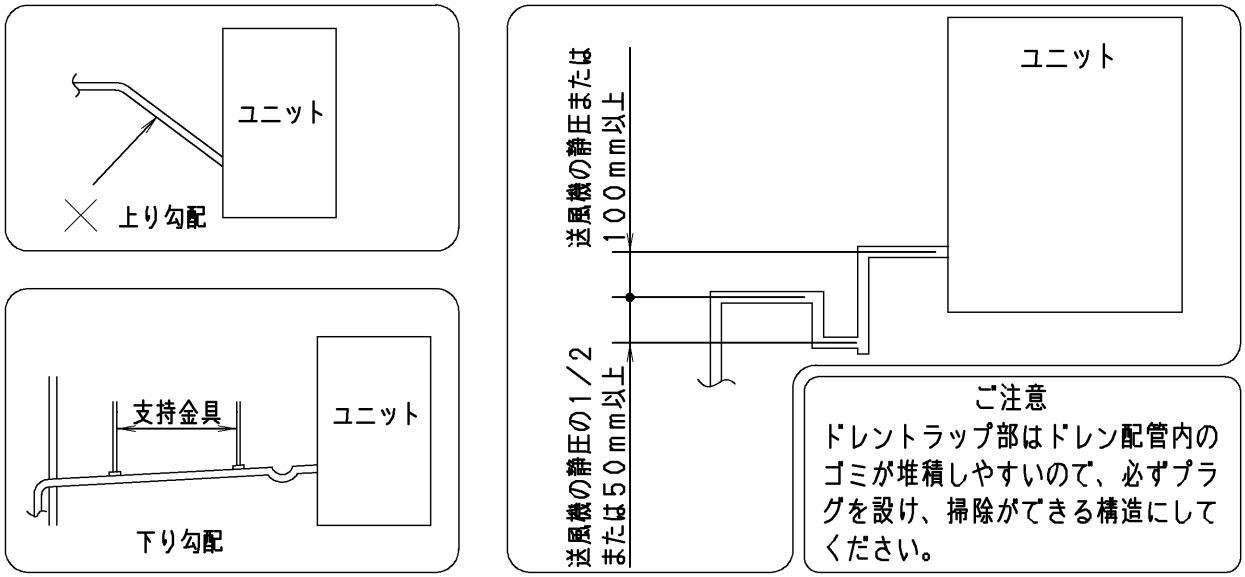


図９

６．別売品の取り付けかた

別売品の取り付けについてはそれぞれに付属している説明書を参照してください。

７．ダクト工事

※ダクトタイプ

- 使用風量範囲を超えると、水飛び等の現象により、ユニットから外への水漏れの原因となりますので、風量調節ダンパー（現地手配）を設置してください。
- 事務所・会議室など低騒音が要求される場所では、必ず消音チャンバー（現地手配）等の消音装置を取り付けください。
- ユニット本体の振動が伝わらないように、キャンバス継手（現地手配）を使用してください。
- ダクトは不燃性の材料を使用してください。
- ダクトには結露を防止するため必ず保温を行ってください。
- 室内ユニット本体への著しい荷重はさけてください。
- 現地にて、風量・機外静圧を調整する場合は別途技術資料などを参照してください。

８．コントロールスイッチカバーの取り替えかた

グループ制御等により操作できなくしたコントロールスイッチのカバーは下記の要領にてサービス部品のカバー（部品コード　６２３１２９５６８０）と交換してください。

- 本ユニットのコントロールスイッチカバーの＊印部の上下２ケ所をつまむように力を加え、上下２ケ所の手動部を上から外します。
- サービス部品のカバー（切欠なし）を取り外しかたの逆の作業で取り付けてください。